

ラッキーのいれ方

礎窯2017 OneMoreCupStory 関連イベント

美術家 友政麻理子が礎窯で展示を行います。作品制作にあたり、参加者を公募します。参加ご希望の方は「器を貸す人」と「器を借りて使う人」、二通りのうちから一つをお選びください。

この作品《ラッキーのいれ方》では、他の人が作った器を手にした人が生活の中で器を使い、そのなかで「ラッキーな器の置き方」を探します。

「ラッキー」は目には見えず、触れもしません。「ラッキー」や「アンラッキー」のイメージは人それぞれです。しかし「ラッキー」は、関心が異なる人々が共有しうる価値や理想を示しているのではないでしょうか。関心が異なる人々が、目には見えない「ラッキー」探しという共通の目標の元に活動をする事で、お互いの価値観や理想を認め合うことができるのではないかと考えます。

参加の仕方

この作品では自作の陶芸作品を貸す人と借りる人、2通りの参加の仕方があります。どちらの役割を行うか選んでください。
※参加者は、礎窯でのイベントに参加していただく必要があります。

1 貸し手の作業

10 / 9 作品を作る@礎窯
貸し手の方は器を作陶し、10月7日〜9日の窯焚きで焼き上げます。

2 器を貸す 借りる

10 / 14 (第一回窯出し日) 作品を貸し出す@礎窯
器の貸し手 借り手が対面します。
貸し手は窯から出した器を借り手に貸し出します

3 借り手が器を自宅に置く

10 / 14 ~ 20 作品を使う@それぞれの自宅
借り手は1週間、自宅で器を使います。毎日違う置き方(もの入れ方)をして、器に何を入れてどのように置いているのかの写真を撮ってください。

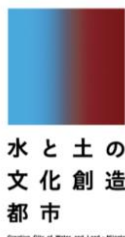
4 借り手から貸し手へ器を返す

10 / 21・22 作品を返す・報告する(ビデオ録画あり)@礎窯
10月21日か22日(都合の良い時間)に、借り手は礎窯で貸し手に器を返します。そのとき、7日間の置き方(もの入れ方)の写真データを提出し、一番「ラッキーを感じた日」の置き方と「ラッキー」の内容を報告して下さい。報告の様子を友政麻理子が動画撮影します。また、一番「ラッキーを感じた日」の置き方(もの入れ方)を礎窯に再現展示してもらいます。

5 展覧会

11 / 11 ~ 19 「ラッキーのいれ方」作品展
どうぞご覧ください@礎窯
礎窯に「借り手」の「ラッキーを感じた」器の置き方(もの入れ方)を再現展示します。同時に「借り手」から提供していただいた1週間の器の置き方(もの入れ方)の写真も展示し、作品返却の際の動画を上映します。

参加者募集



の 造 土 創
と 化 市
水 文 都

この事業は新潟市からの補助金を受けて実施しています。